

登録コード	L2830900		開講年度	2026			
担当教員	片所 由生			副担当			
授業科目	日本語教育学基幹演習						
英文授業名	Pedagogy of Japanese as a Foreign Language: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文206演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			外国人対象の日本語教科書から文法や表現形式の特徴を整理し、学習段階や四技能との関連をふまえて日本語教育で重要な言語項目の特徴を分析し、指導のあり方を専門的に理解する。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			日本語教育の対象となる文法・語彙を専門的な観点や知識を基に観察・分析して、日本語教材を批判的に読み解けるリテラシーを向上させる。			
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本授業では、中級学習者対象の日本語教科書を分析し、コース・授業運営での利用のあり方、教科書の背後にある教育目的や意図をふまえ、日本語指導の特徴を把握する。特に、学習項目となる文法・表現文型の言語的特徴、配列方法とその教育的意図・配慮に着目して教科書分析を行う。また、受講学生による教科書分析をもとに、日本語教育学と日本語学を関連づけた教科書分析と演習を行う。それにより、中級日本語教育の指導・学習内容に対する理解を深め、また学習者の日本語習得プロセスと教科書との関連性の分析、外国人への日本語支援や研究論文読解などに必要な日本語能力・指導技術と専門知識を身につける。						
授業計画	日本語教科書について担当者が各課の内容を解説し、それをふまえ日本語教育における文法・表現文型の扱い方を中心に討論を行う。日本語教科書の分析と併せて、以下のようなテーマに沿って授業を進める。 第1回：履修ガイダンス／日本語教育と教室・コース運営での日本語教材利用と対象学習者 第2回：日本語教科書とシラバス：プログラムとその目的との関連性 第3回：日本語教科書の内容と構成：学習段階に応じた教科書利用と授業実践 第4回：初級日本語教科書の特徴1（学習段階に応じた文法項目の精選と指導法） 第5回：初級日本語教科書の特徴2（語彙項目と四技能別指導） 第6回：初級日本語教科書の特徴3（「表現文型」という学習項目の分析と指導技術） 第7回：文法中心の折衷型シラバスによる日本語教科書の分析1（学習項目配列とコース運営） 第8回：文法中心の折衷型シラバスによる日本語教科書の分析2（初級との連続性と学習者の習得過程） 第9回：文法中心の折衷型シラバスによる日本語教科書の分析3（文体的特徴・フォーマリティと読解） 第10回：文法中心の折衷型シラバスによる日本語教科書の分析4（待遇表現と教室内外の学習機会作り） 第11回：文法中心の折衷型シラバスによる日本語教科書の分析5（表現文型とコミュニケーション） 第12回：文法中心の折衷型シラバスによる日本語教科書の分析6（表現文型と四技能指導のあり方） 第13回：文法中心の折衷型シラバスによる日本語教科書の分析7（学習者評価と中間言語） 第14回：文法中心の折衷型シラバスによる日本語教科書の分析8（日本語リソースと教育ツールの活用） 第15回：まとめ・授業のふりかえり（授業アンケート） 定期試験（レポート） なお教科書の扱い方や各回の授業計画は、受講生の学習段階や理解度により変更しうる。						
成績評価の方法	以下の2点とその割合によって、先に挙げた本授業の目標の達成度を測り、評価する。 授業15週の授業への参加度（50％）・授業15週終了後の最終の定期試験（50％） 学期末に行う定期試験（レポート）では、15回の授業で取り上げた事象について論述を求める。						
成績評価の基準	授業で行う発表や討議に対して積極的かつ能動的に準備し参加できることに加え、レポート課題に対して適切にテーマを設定し、授業で学んだ研究手法や専門的概念をふまえて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切なデータを挙げつつ論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念とデータを統合的に用いて論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、データを用いつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。						
事前事後学習の内容	各回の授業で扱うテキストの範囲を事前に精読し、関連事項を調べるほか、疑問点や批判的コメントを準備して授業に臨むこと。また発表にあたっては、テキストの担当箇所の概要をわかりやすく簡潔に説明できるよう資料準備を行うこと。以上の課題は授業での発表や討論に用いるため印刷して持参し、授業終了時に提出する。教員により添削された課題については、さらに発展的に調べてまとめることを求める。						
履修上の注意	1)授業の運営方法や報告分担などは学生の履修状況により柔軟に対応する。 2)受講学生は、教科書の精読や補足的な下調べなどを十分に行い、授業での報告に臨む必要がある。 3)意見の提示や交換を積極的に行うなど、積極的に授業に参加してほしい。						
質問、相談への対応	毎回の授業終了後に直接対応する。授業日以外に質問や相談がある場合はメールで対応する。 メールアドレス：katasho@shinshu-u.ac.jp						

教科書	『みんなの日本語 中級 本冊』『みんなの日本語 中級 本冊』（スリーエーネットワーク） また、授業運営に際して必要となる日本語教科書も必要に応じて提示し、授業で用いる。
参考書	授業の中で適宜、紹介する。また、授業の中でレジュメや資料などを配布する。